

【学校教育目標】

人間性豊かで、主体的に生きるたくましい児童の育成

【本校の課題】

- ・ 複数の学年で体力テストの「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」などの種目が県平均を大きく下回っている。
- ・ どの学年でも、運動を積極的に行う児童とそうでない児童の2極化が見られる。
- ・ 休み時間の遊びが固定化しており、多様な遊びをしていない。

【現状】

休み時間は、外で遊ぶ児童が多いが、遊びの種類は学年によって偏りが見られる。低学年は、遊具遊びが多く、中学年・高学年はドッジボールやサッカーが中心となっている。その一方で、休み時間に教室などで過ごし、外に出ない児童も少なくない。

週に1度全校体育の時間を取って、短距離走・短縄跳び・長縄跳び・持久走を中心に運動を行っているが、運動量としては、まだまだ不十分である。

器械運動の専門の指導者を招へいし、指導してもらうことにより、跳び箱運動への意欲は高まってきている。

取り組み

全校体育

1学期は運動会に向けた集団行動と短距離走、2学期は短縄跳びと長縄跳び、3学期は持久走を行い、縄跳びと持久走では記録会を行うことで、意欲を高める。また、鉄棒、縄跳び、持久走などのチャレンジカードを配布し、進んで運動に取り組むきっかけとする。

運動しやすい環境づくり

安全・運動委員会の活動として、運動場にドッジボールコートや縄跳びボードを常設したり、縄跳びボードを常設したりすることで、運動に取り組むしやすい環境をつくる。

また、苦手な児童のために、柔らかいドッジボールを各クラスに配布して、遊ぶ児童を増やす。

体育授業の改善

教員の研修で、運動量の確保、学習課題、振り返り、協働などを大切にした授業のあり方について再確認し、授業改善を図る。また、体育授業の最初5分間を、体力づくりタイムとして、筋力、敏捷性、全身持久力のアップにつながる運動を実施する。

【目標】

- ・ 体力テストの結果において、全学年の全ての項目で、県平均以上を目指す。
- ・ 全校体育や外遊びの推奨により、進んで体を動かす習慣がつくようにする。
- ・ 体育の授業において、しっかり体を動かして体力をつけるとともに、目標を持ち、協力しながら活動し、振り返りを行う学習スタイルを身につける。